

今後、多くのベテラン職員の退職が続く中でもこれまでに蓄積した技術や知識を次世代の担い手に確実に継承していくため、研修教材として水道技術の映像化（見える化）を進め、各種研修のさらなる充実を図ります。

また、開発途上国の水道技術の向上に貢献するとともに広い視野を持った職員を育成するため、国際貢献に取り組みます。

効果

・札幌水道を支える人材を確保し、将来にわたって安全・安定給水を継続できます

取組

①人材の育成

- 日常業務に必要な知識や技術などを身に付けるため、局内研修や各職場における研修（OJT研修）を推進します。
- 水道局の専門的な知識や業務に必要な資格を取得するため、外部機関主催の研修などに職員を派遣するほか、職員の国際的視野を醸成させるため、国際会議へ参加します。
- 他水道事業者や出資団体、民間企業などの多様な主体と合同で研修を行い、技術交流を進めます。
- 給配水技術研修所を活用した研修の実施、業務知識・技能や事故事例などの集約・体系化、水道技術の映像記録等の充実により、技術の継承に努めます。

②国際貢献

- 国際協力機構（JICA）を通じた研修の受け入れや、開発途上国への技術協力を推進します。

指標

指標名	H25 (2013) 年度末実績	H30 (2018) 年度末実績	R6 (2024) 年度末目標
内部研修時間 <sup>46</sup>	21.8 時間	17.8 時間	23.0 時間
外部研修時間 <sup>47</sup>	4.4 時間	7.9 時間	7.0 時間
国際交流数 <sup>48</sup>	7 件	5 件	9 件

ビジョン後半5年間の予定事業費(2020~2024年度)

1 億円

<sup>46</sup> 【内部研修時間】 水道事業ガイドラインに基づく業務指標で、水道局が独自に行う研修の職員一人あたりの受講時間のこと。

<sup>47</sup> 【外部研修時間】 水道事業ガイドラインに基づく業務指標で、水道局以外が主催する研修（派遣研修や資格取得のための講習など）の職員一人あたりの受講時間のこと。

<sup>48</sup> 【国際交流数】 技術協力をを行うために海外へ派遣した職員及び海外から来日した人の件数のこと。